

令和2年度 教職員対象学校評価

- | | | | | |
|---|------|--|---------------------|------------------------|
| 1 | 教育目標 | 教育基本法及び学校教育法の主旨に則って高等普通教育を施し、併せて天理教の教義に基づく信条教育を行うことを目的とする。 | (1)信条教育を具体的な形で展開する | ①「祈り」のある教育を実践する |
| 2 | 校訓 | 神一条の精神 ひのきしんの態度 一手一つの和 | | ②「報恩感謝」を身につける教育を実践する |
| 3 | 教育方針 | | (2)与えられた徳分の一層の伸長を図る | ③「互いにたすけあい」ができる教育を実践する |
- 令和2年度

	重点目標	No	目標達成の方策	評価	令和2年度 取り組んできたことの成果と課題	具体的な方策（令和3年度学校評価における改善のための方策）
信条教育	祈りのある教育	1	厳肅な態度で参拝するよう指導の徹底を行うとともに、信条教育の意識を高める	A	朝の定刻参拝に替えて、十全の守護・八つのほこりの拝読を行った。コロナ禍のため、本部神殿にて学校定刻参拝をさせていただく機会がなかった。	クラス単位で本部参拝に行く機会をつくることを促す。
	報恩感謝を身につける	2	ひのきしんの活動に生徒と共に積極的に取り組む	A	何事にも報恩感謝の気持ち(ひのきしん精神)をもって取り組んだ。	生徒と共に、毎日の生活の中で感謝できることを見つけていく。何事も報恩感謝の気持ちで取り組む。
	慎みと助け合いの精神を育てる	3	慎みとたすけあいの精神を意識して日常生活を送るよう指導する	A	あらゆる場で信仰の喜びを伝えるように努めた。	あらゆる場で信仰の喜びを伝えていく。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	4	頭髮、服装など身なりを整えるように指導する	A	頭髮・服装指導について、毎日継続的に指導した。	学校内、登下校時・天理駅等で継続して指導する。
		5	挨拶の励行、時間厳守をするように指導する	A	挨拶はよく出来るようになってきている。さらなる挨拶の励行や時間厳守について積極的に取り組んだ。	挨拶は出来るようになってきているので、教員から率先して声を掛け時間厳守の大切さを諭す。
		6	校舎内外の美化と公共物を大切にできるように指導する	A	引き続き、HR・クラブ等においてひのきしんの大切さを伝え、校舎内外の美化に努めた。	HR・クラブ等でひのきしん・清掃の大切さを教え、清掃時には教員が必ず一緒に行く。
		7	生徒に規範意識の向上を日常的に働きかけをする	A	日頃から校内外でのマナー違反の事例を伝え、人に迷惑をかけないように指導した。	引き続き、校内外でのマナー違反の事例を伝え、人々に迷惑をかけないように話をする。
	指導の協力、連携を図る	8	教職員の意思統一と共通理解、共通行動をするように努力する	B	生徒指導部が企画する研修を充実させ、また職員会議等においても生徒指導に対する考え方の統一を図った。	年間を通じて職員会議等で教員全体で校則の確認をし、生徒についての情報共有を行う。
		9	保護者等へ学校の指導方針を理解していただくよう努力する	A	印刷物の配付、電話連絡、家庭訪問などにより、学校の指導方針を十分に理解してもらい、問題が起ったときに初期対応を迅速に行った。	メール・電話連絡・家庭訪問などを行い、学校の指導方針を理解してもらい、保護者との連絡を密にする。
いじめ問題への対応	10	いじめ問題の重大性をすべての教職員が認識し、未然防止、報告・連絡・相談を確実にし、組織的に取り組む	A	学校全体が「いじめを許さない」という姿勢、「いじめは起こりうる」という危機感を持ち、色々な場面での言動に気持ちを向け、自分自身が「しない」だけでなく、「指摘や注意する」雰囲気を作るように努めた。	多様性のある環境であることを理解させ、学校全体が「いじめは許さない」という姿勢を示し、自分がしないでなく、指摘や注意する雰囲気をつくっていく。	
	11	いじめの様態や特質、原因、背景、具体的な指導上の留意点などについて、教職員間の共通理解を図る	A	ケース会議や関係者会議を適宜行い、学年・クラス・教科・部活動・寮・保護者など、生徒に関わる者同士が情報共有しながら対応するよう努めた。	些細なことでも学年会・関係者会議・職員会議等で話し合い、生徒に関する者が情報を共有しながら迅速な対応を心掛ける。	
進路指導	生徒の希望進路の実現	12	HR、進路ガイダンス等において進路情報を提供し、生徒の意識付けを図る	A	進路に関する情報提供の機会として有効な講演会やガイダンスは継続して行った。『進路のしおり』をより効果的に用いることができるよう工夫した。大学入試制度が変わるので、説明の機会を複数回企画するとともに、オープンキャンパスへの参加を促し、自ら積極的に情報収集するよう指導した。 大学入学共通テストにおいて英語民間試験の活用と記述試験の両方が見送りになるなど、昨年は混乱したが、従来のセンター試験と同じ対策をするだけでは済まされなかった。各予備校が実施する模試などを積極的に受験させ、教員も情報収集に努めた。	進路に関する情報提供の機会として有効な講演会やガイダンスは継続して行う。情報機器を用いた情報収集の方法を指導する機会を設ける。国立大学志望の生徒には、国立大学講義を利用して情報提供を行う。新入試や共通テストに対して理解が深まるよう教員研修を実施する。 令和2年度は夢ナビライブなどのイベントがほぼなくなったが、講演会は度々実現できた。また、オープンキャンパス等にも参加しづらい状況が続き、生徒が情報収集することが難しかった。この状況は今後も続くと思われるので、増加しつつある「オンラインでの形式」に慣れる必要がある。大学入学共通テストについてもさらに研究する必要がある、生徒と共に教員も自己研鑽を怠らないよう、定期的に勉強会などを開催する。
	基礎学力の向上	13	生徒が予習、復習など毎日の家庭学習をするように指導を行う	B	保護者アンケートの結果を共有し、進路指導に関する研修会の実施、類を超えた学習指導に関する教員間の情報交換、主体的な学習への取り組みを促すための教科指導における工夫、ICTを活用した学習の可能性について検討を行った。学習習慣の確立のために、スケジュール帳の活用を指導するとともに、課題提出の点検の仕方についても検討した。 2類は小規模なので、比較的個別に指導しやすい環境である。生徒間の学力差があり、集団で指導することが難しい場合には功を奏することがあるので、この環境を生かして指導した。引き続き、休日も教室開放をした。特設課外講習は成績上位層の者しか受講できないが、スタディサプリ(映像講義)は誰でも学校採択価格で受講が可能であるので、積極的に活用を勧めた。	継続して類を超えた学習指導に関する教員間の情報交換、主体的な学習への取り組みを促すための教科指導における工夫を行う。スケジュール手帳の活用について具体的な取り組みを検討し、教員間での情報共有を進める。また、小テストを実施する。 小規模ながら生徒間の学力差が年々拡大しているため、上位層をさらに伸ばし、下位層を引き上げるために個別指導が必要であると考える。特に下位層の生徒は、休校の影響が残っており、学習習慣がついていない生徒も目立つ。教員でそういった生徒の情報を共有し、手厚い指導を心掛ける。また、コロナ禍で急速に普及した「映像学習」の正しい活用方法なども指導する。
	授業内容、技術の向上	14	生徒の学力を最大限に高める授業内容、進度、教え方の工夫をする	A	課外講習についての年間指導の形と状況把握に関して、一層の改善を図れるように教科に依頼し、部会でも検討を継続して行った。主体性評価につながる活動として、オープンキャンパスへの参加を効果的に活用させた。 毎週行われる2類進路部会において、学年主任から各学年の模試成績や学習の様子などを報告してもらい、情報を共有するとともに改善すべき点を話し合った。また、校外で行われる研究会等には積極的に参加し、会議にて報告会を行った。	課外講習の実施内容を各教科や講習担当者で体系的にし、年間計画の充実を図る。2年生の課外講習には国立大学講習と指名者講習しかないため、私大受験向けの講習を検討する。教科内での情報共有や研究会等への参加を積極的に行う。 前年に引き続き、2類進路指導部会において学年主任から各学年の模試成績や学習の様子などを報告し、情報を共有するとともに改善すべき点を模索していく。また、ICTを効果的に利用するための研修も実施する。
	生徒の意欲、関心の向上	15	生徒の疑問や質問を真摯に受け止め、授業にフィードバックするよう努力する	A	耐震工事が終了して進路指導室が使えるようになったので、その積極的な活用を促した。また、進路指導室や多目的室のパソコンを使っての検索や、教室に設置している進路関係の資料の活用についても積極的な活用を促した。 昨年度に続き、進路研究会と連携しながら学校休業日や長期休業中にも教室やPC教室の開放を続けた。また、スタディサプリの利用生徒が増加したため、各類型・学年に担当者を決めた。講義動画の利用だけでなく、様々なツールを有効活用した。さらに大学入学共通テスト実施初年度のため、校外で実施される模試等を積極的に受験させた。	生徒が疑問や質問を投げかけやすい雰囲気作りを配る。大学入試改革等で変更となった点を学年会や各教科に下ろし、学校全体で生徒に指導できる体制をより充実させる。 目標がなく、学習意欲が湧いてこない生徒が増えてきているため、学年ごとと学問研究につながる講義動画など、有効と思われるツールを積極的に利用する。また生徒が教員に質問できるような雰囲気を作る努力が必要である。昨年度に続き、校外で実施される模試等を積極的に受験させ、自分の立ち位置を自覚させることで奮起させる。
	人権教育	人権教育、研修の充実	16	人権HRの系統だった取り組みをする	A	校外の研修会・学習会や人権イベントにも、積極的に参加できるよう働きかけ、人権意識を高めるための施策を講じた。
		17	講師を招いての研修を受講し、人権教育に関して研鑽を積む	A	教員の要望も取り入れながら検討し、人権教育HRや日々の生徒指導に活かせるような充実した研修にした。	現状に合った有意義な研修の場をもつために、教職員の要望、研修内容や依頼講師に関する情報を収集しながら検討していく。また、教職員の校外研修についても情報を伝え積極的に参加する雰囲気を作っていく。
特別活動等	特別活動の充実を図る	18	生徒会活動、HR活動の活性化を行う	B	学園祭への各クラス・クラブ単位での参加、バラエティへの有志の発表などを促進した。	感染拡大防止対策に十分に留意しながら、クラスやクラブ単位での学園祭への参加を促し、また学年単位でのホームルーム活動など創意工夫を凝らした特別活動を行い、学校の活性化を図る。
	部活動の充実を図る	19	部活動を通して心身の成長を図るとともに、顕著な成績を修められるように努力する	A	各分野の頂点を目指し、技術面だけではなく、精神的にも成長するよう取り組んだ。	新型コロナウイルス感染防止対策に十分に留意する。怪我をしないように無理のない活動計画を立て、効率の良い練習方法を模索し、成績を向上させるように努める。
研修	教員の指導力の向上	20	研究授業を実施し、教員の授業技術を向上させる	B	定められた研究授業のみならず、教科ごとの自主的な研究授業も行い、授業技術の向上に役立つ計画ではあったが、コロナ禍の影響を受け、不十分な実施実績となった。	当該教科だけでなく他教科の研究授業にも積極的に参加し、授業技術の向上に役立てるように努める。
		21	計画的な研修を行い、教員の継続的な資質向上を図る	A	各部、各委員会、学年で研修テーマを設定し、綿密な計画のもと、議論を重ねた。	各部会や学年で研修に関する年間計画を立て、テーマに沿った適切な講師派遣や目標への実践に努める。
学校運営	広報活動の推進	22	HP、新聞、学校説明会等で広報活動を積極的に行う	A	HPの更新、新聞の発行等により学校に関する情報を迅速かつ正確に伝えた。	ホームページの更新、学校新聞の発行等により学校に関する情報を迅速かつ正確に伝える。また、学校案内を発行し、広範囲に配布して広報活動に役立てる。
	校務分掌の組織的な運営	23	校務が円滑に推進できるように、適切な役割分担、組織的な運営を行う	B	それぞれの教職員が持つ特性がより生かせるような配置を行い、円滑な運営を心がけた。	校務分掌の適切な割り振りに努め、各部署の責任者を中心として組織だって問題提起と活動をする。
	安全管理教育の推進	24	外来者の対応(受付等)は適切に行う	A	来校者については事務室窓口で対応し、来訪者の札を装着して校内への案内をした。	外来者の事務所窓口での受付と、外来者の訪問意図を各職員室でも告げてもらうようにする。
		25	情報機器の安全教育、登下校時の安全教育を行う	B	進路指導上で携帯電話が必要となり、所持を認めることとなった。関係機関と連携を取り、正しい使用方法を指導した。	進路指導上で必要となった携帯電話の正しい使用方法を引き続き指導していく。また、SNS上での不意な発信を厳に慎むように指導する。
	26	事故、事件、災害などの防災や危機対応に取り組む	A	地震や火災を想定した避難訓練を実施し、職員・生徒の危機管理意識をさらに高めるように努めた。	適切な避難経路を常に意識させておくとともに、安全教育と避難訓練を実施する。	